

公 民

『公共，倫理』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和7年度（第5回）共通テストが実施された。なお，評価に当たっては，21 ページに記載の8つの観点により，総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 『地理総合／歴史総合／公共』の「公共」第1問と同じ。

第2問 『地理総合／歴史総合／公共』の「公共」第4問と同じ。

第3問 美や芸術と美的経験について（源流思想・西洋近現代思想）

学校内外での生徒の会話を基本設定とし，原典などの諸資料を用いながら，美や芸術のあり方や美的経験について多面的・多角的に考察させる大問である。美や芸術をテーマにした点は特筆すべきである。源流思想と西洋近現代思想を横断しながらバランスよく出題され，資料を用いた設問でも科目に固有の知識をふまえて正解に至る形式となっている。基礎的な知識や資料読解力を問う平易な設問もみられ，全体としては標準的な難易度であった。ただし，高校の授業や教科書でほとんど扱われない事項を含む選択肢が散見されたことから，よく学習した受験者でも高得点は取りにくかったと考えられる。

問1 古代ギリシア思想における美についての設問。ヘシオドスの著作における人間の描かれ方については受験者の知識が乏しいと思われ，また正答の選択肢中の「様々な美しいものへの欲求」というエロースの説明が教科書の一般的な説明に照らして誤りであるようにも読めるため，やや難易度が高い。

問2 宗教と芸術の関係についての設問。モスクの設備や装飾について十分な知識をもつ受験者は少ないと思われ，消去法によって正答にたどりついた受験生が多かったと推測される。イエスが「預言者」なのかなど，各宗教の教えに関する正確な理解をふまえた正誤判定が求められ，やや難易度が高い。

問3 美に関するアウグスティヌスの思想について述べた資料を基にした設問。資料読解だけでなく，アウグスティヌスの思想に関する知識と組み合わせて正答を導く形式である。読み取りは難しくないが，必要となる知識はやや踏み込んだものといえる。

問4 中国思想における礼樂の考え方についての設問。扱う思想家は4名と多いが，ごく基本的な知識で対応でき，選択肢中の表現も教科書の説明に近く判別しやすい。難易度としてはやや平易である。

問5 大乘仏教の思想に関する理解を問う設問。4つの説明文のうち適当なもの全ての組合せを問う，難易度が高くなりやすい問題形式といえる。内容的にも，経典の内容や思想の伝播に関わった人物など，受験生のほとんどが知識をもたない事項を含む説明文が複数あり，全体として，やや難易度が高い。

問6 近代の芸術に関わって，近代科学やルネサンス期の精神についての理解を問う設問。基本

的な人名や用語と一般的な説明の対応関係で正答を導くことができ、難易度としては平易である。

問7 ベンヤミンの資料に基づいて芸術作品と複製技術の関係について問う設問。必要となる知識は基本的なものであり、資料の文章の内容も具体的にイメージしやすいため、難易度としては平易である。③と④のみ後半が同一であることが正答を導くヒントになってしまったかもしれない。

問8 芸術による美的体験と生きるものの関係について、ミシェル・アンリの資料を読み解く設問。ほとんどの受験者にとって初見の資料であり、具体的な理解は容易ではない内容と思われるが、資料の文章と選択肢中の表現との文言上の対応関係がわかりやすいため、難易度としてはやや平易である。

問9 大問全体の会話文を基に、芸術を評する適切な語句を問うとともに、近代の思想家の芸術についての考えを問う設問。一般的な語句を選択肢として美や芸術をめぐる議論の内容理解を問うことができているが、美しさがある・ないと言い切る表現には若干の違和感もある。また、ウェーバーの芸術論を学習している受験者はほぼいないと思われ、確信をもって正誤判定をすることは難しい。

第4問 日本における外来思想の受容について（日本思想）

日本における外来思想の受容について、高校生が大学院生との対話を通じて思索を深め、倫理の授業内で発表し、レポートをまとめる場面設定の大問である。原典資料を用いた設問もあったが、資料の読み取りは平易であった。一方、教科書での取扱いが少ない用語や思想についての言及も一部あった。多くの教科書で扱われる人物の思想内容の本質的な理解を問うなど、日常の学習の成果が発揮できる設問となることが望ましい。文章量は適切で、出題範囲も古代から近現代までバランスが取れていた。

問1 日本における神々への信仰と外来思想との関係を問う設問で、既得知識の定着を適切に測ることができる。

問2 高校生の発表内容を通じて、親鸞の悪人正機説についての理解を問う良問である。「煩惱具足の凡夫」である悪人こそが、阿弥陀仏の本願による救済対象であることを理解していれば解答できる。

問3 江戸時代の思想家についての理解を問う設問である。富永仲基の加上説について理解していれば解答できる。和魂洋才で知られる佐久間象山が、鎖国攘夷ではなく開国論をとった点を正誤判断させるのは、倫理の学習内容を超えており、このような選択肢の文章は改善を望みたい。

問4 西村茂樹の『日本道德論』の原典資料から、彼が考える日本の道德の立て方を答えさせる設問である。単純な読み取りであるため、教科書で学んだ既得知識や倫理的な見方・考え方を組み合わせた設問となることが望ましい。

問5 高校生のまとめたレポートを通じて、思想内容と思想家の正しい組合せを選ぶ設問である。

「皮相上滑りの開化」からbが夏目漱石、「武士道の台木に基督教を接いだ」からcが内村鑑三の言葉であるとわかり、⑤を選ぶことができる。ただ、「雑居」の語から丸山眞男を選ぶのは、教科書での取扱いが少ないため、難しかった。

第5問 認知の心理学（心理学）

生徒同士が、記憶の不確かさの問題から始まり、思い込みで判断してしまう認知バイアスの問題に至る会話をしている中に、教員が加わり、認知バイアスへの対処法へと議論が発展していく構成となっている。その過程で、記憶の仕組みや認知バイアスの種類、更に認知バイアスに対処するためのクリティカル・シンキングや環境整備の在り方を、哲学者の思想や医学の事例などと

関連付けながら問い，心理学の基礎的な知識だけでなく，その具体的な応用力を試す大問となっている。

問1 実験資料を提示し，言葉の記憶に関する基礎的な知識だけでなく，その活用力を求める設問である。ただし，実験中に口頭で伝えられた言葉の記憶だと受験者が受け取ると，空欄Aは短期記憶が入ると考えてしまうので，言葉の記憶がどの水準のことなのか明示できればなお良かった。

問2 具体的な事例の中にある認知バイアスについて，その種類を考えさせる設問である。ただし，認知バイアスに関する知識がなくても事例に即した内容の選択肢を選べば解答できる。認知バイアスの種類を先に示し，当てはまる事例を選ばせるなど，知識の活用力を見る形でも良かった。

問3 クリティカル・シンキングについて，哲学者の思想に対応させて問う意欲的な設問である。しかし，対応の成否については，思想やクリティカル・シンキングの解釈次第になる要素があり，正誤の判断がしにくい。④は，デューイの道具主義，クリティカル・シンキング，ヒューリスティックの3点についての理解とそれらの整合性を同時に問うており，難解である。

問4 医学研究における二重盲検法を題材に，認知バイアスへの対処法について具体的に問う設問である。誰のどんな認知バイアスを防ぐのかということまで考えさせる良問である。

問5 認知バイアスへの対処法を，方向性の選択を求めることで多角的に考えさせる設問である。方向性に連動する対処法を論理的に思考すれば解答できる。ただし，認知バイアスに終始せず，例えばなぜその対処法が有効かを感情や発達心理学の観点からも問う設問にしても良かった。

第6問 「社会体制と個人の尊厳」について（現代の思想とヒューマニズム）

「戦争と平和」についての会話から権力構造のあり方について考えを深めさせていく大問である。リード文の内容を各設問の資料・会話文で具体化させ，受験者がテーマについてより多面的・多角的に考察することができた。設問形式はバランスよく含まれており，受験者の学力を総合的に測ることのできる大問であった。やや難しい設問もあったが全体的な難易度としては標準的である。

問1 ヒューマニズムに関わる人物・思想についての理解を問う設問である。組み合わせる著書・キーワードが平易であり受験者には是非正答して欲しい設問である。ただ，教科書に記述の少ない人物名もあったため，消去法によって正答にたどりついた受験者が多かったと考えられる。基本的な知識を前提に知識の活用を問う設問であることが望ましい。

問2 フーコーの思想について会話文穴埋め形式であり，基本的な内容の理解を問う設問である。解答には直接影響しないが，選択肢の文章と会話文とのつながりがやや分かりにくい。

問3 知識理解と資料読み取りを組み合わせた会話文穴埋めの設問である。a・bについては資料とリード文から読解・判断することができる。cはヘレニズム時代の思想の知識の確認である。コスモポリタニズムがストア派の世界市民主義と結びつかなかった受験者がいた可能性がある。

問4 『夜と霧』についての会話文から人間としての尊厳が軽んじられている身近な事例を判断する設問である。会話文中から選択肢の正答を導くことは極めて平易であったため，他の思想との組み合わせ等の工夫が望まれる。しかし，取り扱っている内容は現代の社会でも重要な問題であり，受験者に考えを深めさせたいという出題者の意図が感じられる。

問5 シャープの資料を読解し，思想が具体化されたものを判断する設問である。資料の読解にやや時間を要するが，選択肢を絞ることは難しくない。

3 分量・程度

試験問題の分量は、大問 6，総設問数 33 の構成である。試験全体の分量や文字数については、「公共」と「倫理」それぞれの問題作成方針を考慮すると適切なものであったと考える。

「公共」の問題については、資料を読み解く問題において、資料を丹念にたどり読み解く必要があるため、解答にかなり時間がかかったと考えられる。全体としては、制限時間内で解答できる妥当な分量であったと思われる。程度については、問題は各分野からバランスよく出題されており、難易度は標準的であったが、知識や概念をきちんと理解していないと正答に至らない問題については、正答率が低い傾向が見られた。

「倫理」の問題については、全体を通して幅広い分野が出題内容として取り上げられており、総合的な難易度については適切である。ただし、第 5 問では全体を通して「バイアス」についての内容となっており、取り扱う出題範囲のバランス・大問ごとの難易度については検討が求められる。各大問及び各設問で資料を読解・活用する設問が多くみられたが、設問数 25 に対し、資料問題が 12 問あり、解答時間に余裕はなかったと思われる。一つの資料に対し深い考察を求め、そこから複数の設問を作るなどの可能性についても検討されたい。出題された資料は精選されたものであり、受験者の思考力・判断力・表現力等を適切に測ることができていた。しかし、教科書でほとんど扱われることのない事項を問う設問から高得点を取ることができた受験者は少なかったと推測される。受験者が高校の授業や教科書で身に付けた知識や思考力で取り組める試験問題作りが望まれる。

4 表現・形式

各設問の文章表現・用語の扱いについては、おおむね適切であった。生徒を主体とする対話や探究的な学習場面を基本設定とし、原典資料などを基に各大問のテーマを追究する構成は、『公共，倫理』の学習に示唆を与えるものである。資料や図表の扱いは適切であった。受験者が任意に選んだ選択肢それぞれに対応する複数の正解がある小問は、多面的・多角的な考察を促す出題として評価できる。

選択肢における用語の説明が教科書等の一般的な説明と乖離している箇所が一部みられ、その中には正答を一つに定める上で若干の疑義を呈したくなるものもあった。全体を通して、会話文や資料などの内容理解を基に、科目に固有のテーマを追究して学ぶ文脈の中に各小問が位置付けられていた。

5 まとめ（総括的な評価）

「公共」は現実の諸課題を追究したり解決したりする活動をとおして自立した主体として社会に参画するために必要な資質・能力を育成することから、今回は男女共同参画社会や、公共空間の在り方について問う出題となっている。

「倫理」は、「推し」を切り口とした美や芸術、異文化理解や非暴力の可能性等、今日的な課題を設定し、探究する構成となっていた。第 5 問は、新課程となったことを反映し、認知の心理学で構成され、課題解決の方向性の選択によって解答が異なる設問を置く等、意欲的な作問となっていた。大問の展開も、高校生が自ら立てた問いを、教員や大学院生との会話等で深め、資料にも当たりながら探究し、その成果を発表やレポートで提示する流れとなっており、探究学習の在り方を示していた。また、授業資料やアドバイス、関連する原典資料等も題材とし、多面的・多角的に考察させていた。

ただし、設問における問い方や選択肢の記述から、解答するための判断がしにくかったり、誤答

へと誘導されたりするものが見られた。第5問はそのような難点から得点率が低かった面もある。受験者にとって初見の資料でも，判断材料を与えれば，知識だけでなく思考力も問うことができ，実際にそのような良問も第5問も含めてみられた。全体としては適切な難易度で，教科書の単元を横断して考えさせる問題もあるなど，新科目『公共，倫理』の可能性を感じさせるものであった。